

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度5月27日に3年生を対象とした「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月15日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和3年11月  
(2021年)

## 1 教科に関する調査結果の分析

### 国語



#### (1) 調査の概要

本校正答率は、一部全国値を上回るものもありましたが、概ね全国値よりやや低い結果でした。

#### (2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

##### 【話すこと・聞くこと】

「話し合いの話題や方向を捉える」問題に関しては、できていましたが、「質問の意図を捉える」問題に関しては、やや課題がありました。「話し合いの話題や方向を捉えて離す内容を考える」問題に関しては、無解答率もやや高く課題がありました。

##### 【書くこと】

「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」問題に関しては、やや課題がありました。また、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」問題に関しては、無解答率も高く課題がありました。「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題に関しては、課題がありました。

##### 【読むこと】

「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」問題や「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」問題は、多くができていましたが、「文脈の中における語句の意味を理解する」問題や「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題には課題がありました。

##### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「文脈に即して漢字を正しく読む」問題はしっかりできていましたが、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題や「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題は、やや課題がありました。

#### (3) 今後の改善点について

##### 【話すこと・聞くこと】

主体的で対話的な深い学びが推し進められる中、本校では、班学習を取り入れ、班の中での話し合い活動を中心に、授業展開を行ってきた成果が出てきています。それが、「話し合いの話題や方向を捉える」問題や「質問の意図を捉える」問題で高い正答率が出た結果だと考えられます。

しかし、十分に聞き取りを行う姿勢や、話をしてくれたことに対する対応の面で課題が見えます。ただ単に話し合いをするのではなく、目的に応じて相手に対する対応に特化した話し合い、たとえば、「今回は相手の言葉に質問を返してみよう。」や「相手の言ったことをまとめてみよう」など、目的を明らかにして、話すこと・聞くことの手助けをさせたいと思います。

## 【書くこと】

新聞の購読機会は減少する傾向にあり、Web 上では自分が好きなものを選んで読むため、より読みやすく、わかりやすい、インパクトのある文章にしか目を通さないという現状も一般的には指摘されています。そのため、論説文、説明文を読む機会が減少してきています。本校では、朝読書の時間を設け、少しでも文章を読む機会を増やしていますが、多くは小説や物語の文章に対峙することが多くなっているのが現状です。モデルとする文章の数が少なければ、論理的な文章を書くことは困難になります。できるだけ、国語や、その他の時間を使い、論説文・説明文を読む機会を増やすことを念頭においていきたいと思えます。

## 【読むこと】

物語については、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」力が一昨年度と同様正答率が高くなっています。朝読書で小説や物語などの文章を多く読んでいる成果が出ているのだと思います。一方で、前述したとおり、論説文や説明文などについては、この種の文章を読む機会が少なく、筆者の見方、考え方を捉えることに難しさを感じている生徒が多いので、論説文・説明文を読む機会を増やしていきます。

また、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題に関しては、かなり課題がありました。この点については、他教科とも連携を図りつつ、横断的な指導を行い、克服していきます。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

今年度はこの項目に関する正答率が非常に高かったです。本校では自主学習ノートや日々の授業での JKT（授業開始前テスト）の継続的な漢字学習などが実を結んでいる成果だと思えます。「文脈に即して漢字を正しく読む」問題や「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題などは、知識として定着していなければ正解できない問題です。日々、生徒が家庭学習や、授業を真剣に受けている結果です。この力を継続していくため、授業規律の徹底と、日々の学習の徹底を指導していきます。



## 数 学

### (1) 調査の概要

本校正答率は、一部全国値を上回るものもありましたが、概ね全国値よりやや低い結果でした。

### (2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

#### 【数と式】

「数式の加法と減法の計算問題」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題」、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する問題」は全国値をやや上回りました。一方「一元一次方程式をつくる」問題は全国値を下回りました。

#### 【図形】

「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している」、「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる」、「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」、「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」は全国値を下回りました。

#### 【関数】

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」は全国値をやや下回りました。また、「関数の意味を理解している」、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」という問題は全国値を下回りました。

#### 【資料の活用】

「与えられたデータから中央値を求める」という問題は全国値をやや上回った。一方、「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる」、「相対度数の必要性和意味を理解している」、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という問題は全国値を下回りました。

### (3) 今後の改善点について

#### 【数と式】

事柄が一般的に成り立つ理由を、道筋を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を重視する。また、数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実する。

#### 【図形】

扇形の中心角と弧の長さや面積との関係の理解を深めることができるようにするために、扇形が円の一部分であり、その面積や弧の長さを何倍かすると、元の円になることを確認するなど扇形の特徴を的確に捉える活動を重視する。また、ある条件の下で図形を動かしたとき、常に成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実し、図形の構成要素に着目するなどして、いつでも成り立つ事柄を見いだす場面を設定する。

#### 【関数】

関数の意味を理解するために、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見いだす活動を重視することが大切である。その際、二つの数量の変化や対応の様子に着目し、独立変数と従属変数との違いを考察する場面を設定する。また、様々な問題について数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実し、方法の説明として不十分なものを取り上げ吟味する場面を設定し、説明を洗練していく活動を取り入れる。

#### 【資料の活用】

大きさの異なる二つ以上の集団データについて、その傾向を比較する活動を重視する。その際、度数の合計が異なる二つの集団のデータを各階級の度数で比べてもよいかについて検討する場面を取り入れ、相対度数の必要性を実感できるようにする。また、日常生活や社会における問題を取り上げ、その問題の解決のために収集したデータの傾向を的確に捉える活動を充実することなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する。

数学に限らず全教育活動の中で、主体的・対話的で深い学びとなるような授業や活動を今後も展開していきます。



## 2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

### ～生徒質問紙からの分析～

#### 【生活習慣】

朝食を毎日食べている生徒の割合は、全国値を下回りました。また、毎日、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合や、毎日、同じくらいの時刻に起きている生徒の割合は、いずれも全国値をやや下回りました。

睡眠時間の確保や、ゆとりのある生活習慣づくりをご家庭で進めていただいていることと思います。規則正しい生活のリズムを作ることが学習にもつながります。今後ともよろしくお願いします。

#### 【自己肯定感・自尊感情】

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや上回りました。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して肯定的な回答した生徒の割合は、全国値をやや下回りました。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を上回りました。今後もキャリア教育や職業体験学習をはじめとした、各種体験学習の取組みを積み重ね、社会に必要とされる人材の育成に取り組んでいきます。

### 【家庭学習】

学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜日）1日当たり2時間以上学習する生徒の割合は、全国値を上回りました。反対に、全くしない生徒の割合は、全国値を大きく上回りました。家庭学習に対する意識・取り組みの二極化が進んでいます。

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を大きく下回りました。また、あまりしていない、全くしていない生徒の割合は、全国値を上回っていました。

家庭学習は習慣です。歯磨きやお風呂、朝ごはんなどと同様、毎日の生活の中に組み込んでいくことが必要です。学校でも、家庭学習の習慣づけのために自学ノートの取り組みを進めていますが、ご家庭でご理解をいただき、習慣化できるようにご指導願います。



### 【家庭・地域社会】

「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を大きく下回りました。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値をやや下回りました。これらの設問の回答値は、全国・本校ともに従前に比べて肯定回答率が大幅に低くなっている傾向が見取れることから、コロナ禍にあって、昨年度から今年度にかけて、地域行事そのものが中止されていることの影響を大きく受けていると推測されます。

### 【休校期間中の様子】

今回の学力学習状況調査では、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中の様子」について問う質問が設定されました。「期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を下回りました。「期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国値を下回りました。「期間中、勉強について不安を感じましたか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国をやや下回りました。今後、学校が臨時休業や出席停止となった際には、生徒の不安や負担を軽減するためにも、オンラインを活用した授業配信や学習支援の方策を、より一層充実させる必要があることがわかりました。



## 3 おわりに

本調査の課題を踏まえ、学習については基礎的基本的な知識と技能の習得、それを活用していく確かな学力を育むためには、日々の授業、家庭での学習に意欲的に向かう姿勢が必要です。

学校においては、授業規律・生活規律を確立した上で、学ぶ意欲を喚起する授業づくりや、ICTを活用したわかる授業の創造、少人数授業などの個に応じた取組みの充実、小学校との連携のもと系統的な小中一貫教育の推進など、引き続き多様な指導法の工夫改善に取り組んでまいります。また、オンラインを活用した学習を推進するために研究を進めてまいります。

自分の意見や考えたことを全体の前で発表することや、それぞれが思ったことをお互いに交流する活動などを通して、主体的、対話的で深い学びの実現をめざします。

学習内容の定着には、学校での反復学習のみならず、家庭学習の担うところが大きく、学校と家庭が連携し、自学自習力をつける取組みを進めるために、今後ご協力いただきますようお願い致します。